

しみん基金・K O B E

NEWS

Vol.35

2015年3月号



特定非営利活動法人しみん基金・K O B E

〒651-0095 神戸市中央区旭通 1-1-1-203 (サンピア 2 F) TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

心のひと 竹下景子さん

大震災20年の今年、3年ぶりに「竹下景子 詩の朗読とメモリアルコンサート」が県立芸術文化センター中ホールで催された。

主催の復興支援コンサート実行委員会事務局長田平純吉さんによれば、1995年6月にはじまった「震災復興支援コンサート」は、1998年まで毎月三宮にあったかんしんホールで開かれており、それがメッセシー性のある詩の朗読にしたい、朗読は竹下景子さんがいいという想いに発展したという。

そして、竹下さんが引き受けてくださり1999年1月18日に「第1回竹下景子 詩の朗読と音楽」がかんしんホールで催される。以後東日本大震災で仙台に開催を委ねるまで毎年開かれて来た。なんといつても竹下さんのシンブルで強い想いがあればこそそのコンサートは歴史である。

20代の頃の竹下さんは、嫁にしたい女性のナンバーワンだったと記憶するが、30歳で写真家の関口照生さんと結婚され、今年34歳と32歳になるご子息の母である。映画や舞台の仕事に加え最近NHK TV スタバの司会進行役までなされている。神戸の観光大使をされているが国連WFP(世界食糧計画)の親善大使としてアフリカなどに出かけられている。

竹下景子さんは心のひとだ。そのルーツは弱者の立場に立つ弁護士だったお父上にあるのだと思う。

しみん基金・こうべ審査員 中島 淳
(神戸芝居カーニバル実行委員会)

目次

1月〜3月ファンドレイジングイベントと報告	2
アースデイ神戸出展／ボランティアな日々	4
おすすめBOOK	5
20年目のひとり言	

表紙の人:竹下景子さん



開催概要

- 日時…2015年3月6日(金) ・昼の部 13時半から16時まで ・夜の部 19時から21時半まで
- 会場…東灘区民センター「うはらホール」
- 主催…映画を観て東北支援うたごころ上映実行委員会
- 参加者数…約300名
- 協力…近畿労働金庫地域共生推進部
- 後援…兵庫県生活協同組合連合会、神戸市教育委員会

多くの皆様にご覧頂き、約20万程度の収益と5万6千円1円の募金をいただくことができました。これらの収益はコープこうべと折半し、当会はずっと・こころ・つなぐ基金へ被災した人々を支援する、神戸地域発の市民活動団体への助成)として活用いたします。ご寄付・ご参加くださった皆さんに感謝申し上げます。

この作品は、苦難の中でも希望を抱いて歩み始めたひとりの少女の、震災後1年あまりの変化を丁寧にカメラで追いかけたドキュメンタリーです。全国各地で主に自主上映会のかたちで上映され、静かな感動が広がっています。ご覧頂けなかった皆さんも、またいつかどこかでご覧いただき、主人公の少女のメッセージに、是非触れて頂きたいと思えます。3月29日には京都で上映会があります。

「うたごころ2012年度版」上映会 & 榛葉監督講演会



今回は、4年目を迎える「3・11」に向けて、生活協同組合コープこうべと協働事業として、昼夜2回にわたって上映しました。

2014年度 ファンレイジングイベント 報告

1月~3月にかけて、3つのファンご寄附、ご参加くださ

た皆さまに、厚く御礼申し上げます。

こころ歩ウォーク



このイベントは、阪神淡路大震災で被害が大きかった長田地区を歩き、地元の方のお話を聞くことで、復興した町の様子やその中に依然残されている課題を知り、「市民社会」のあり方を次世代に伝えていくためのウォークイベントです。

ご参加いただいた方に、募金(一口千円)を行い、経費を差し引いた17万8千6百円を当会にご寄附いただきました。ご参加いただいたみなさまとご協力いただいた方々に感謝いたします。

開催概要

- 日時…2015年1月11日(日)9時半~
- 主催…こころあひウォーク2015実行委員会、(特活)神戸まちづくり研究所・神戸復興塾、まち・コミュニティ・アクション、(特活)しみん基金・こころべ
- 協力…近畿労働金庫地域共生推進部
- 参加者数…約150名



このコンサートは、阪神・淡路大震災から20年の節目を迎え、3年ぶりに開催されました。

今回は、これまで神戸や仙台で朗読された詩の中から厳選された10作品を竹下さんに朗読していただきました。

来場された方々からは、ご感想とともに、詩の朗読とコンサートを通して、改めて思い出された自身の当時の体験や、震災から時を経て、今の自分ができることについて考えられたというような貴重な声をお寄せいただきました。

ZIPANGU「絆」マンドリンオーケストラによる迫力のある演奏に合わせて詩が朗読され、詩と音楽の持つ力が会場全体を包み込みました。

竹下景子 詩の朗読とメモリアルコンサート

開催概要

- 日時…2015年1月18日14時
- 会場…兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール
- 主催…復興支援コンサート実行委員会、ひょうご安全の日 推進県民会議
- 参加者数…約750名
- 共催…兵庫県芸術文化協会
- 協賛…積水ハウス(株)(株)フェリスモ、(有)ポック、住友ゴム工業(株)
- 協力…毎日放送





アースデイ神戸
2015に
出展します。

アースデイ(EARTH DAY:地球の日)は、地球環境について考える日として1960年代にアメリカで提案された記念日です。1970年には4月22日を「アースデイ」とし、日本でも4月22日を中心に各地で様々な形のアースデイイベントが開催されています。

アースデイ神戸は2007年に始まったイベントで、今年で9年目を迎えます。しみん基金・こうべはこのイベントに出展を予定しています。ぜひのぞいてみてください。

今年のテーマは、「感じる つながる 変えられる」。地球を、未来を、一緒に感じませんか。

■日時…2015年
5月4日(月・祝)
11時～17時
5月5日(火・祝)
10時～16時

■場所…みなとのも
り公園
(神戸震災
復興記念公園)

ボランティアな日々

毎週1回ボランティアに来てくれている大学生のお二人をご紹介します。

はじめまして、ボランティアをさせていたでいる倉橋です。昨春に学生のうちにボランティアをしたところ、偶然見つけたことがきっかけで始めました。

どんなNPOで何をしているのかほとんど知らず勢いで始めたところもあります。一年近くお世話になるうちに、しみん基金・こうべの活動、さらに地域の様々な市民活動についても知ることができました。

ボランティアの仕事としては、主に事務作業や助成先団体への取材や記事作りをさせていただいています。その中で、私は様々な団体の活動の見学やイベントに参加することで、団体の方や参加者の方々の生の声を聞くことができました。これは、大学の講義の中だけでは学べない、とても貴重な体験で、そこから多くのことを学ばせていただいています。

ボランティアを始めたことよって、自分の知らないところで、たくさんの人たちが

地域社会の課題の解決に取り組んでいることを知り、改めて神戸は魅力的なまちだなと感じました。さらに市民活動が発展し、神戸がより良い地域になるように、私も助成先団体の活動を皆さんにご紹介したりすることで、少しでも地域に役立てたらと思っています。

そして、自分自身もしみん基金・こうべで多くのことを学び、その経験を学業や将来にいかしていきたいです。



去年の11月からでボランティアをさせていたでいる平川です。

大学で非営利組織の経営や金融について学んだことがきっかけで、コミュニティ・ファンドに興味を持ち、週に1度お世話になっています。

神戸出身ではないですが兵庫(赤穂市)出身なので、神戸には勝手に親近感があります。

あまり、活動的なタイプではなく、家でごろごろするのも好きですが、できるだけ積極的に行動をするように心がけ、神戸や兵庫県に少しでも貢献することができれば嬉しいです。

将来は、コミュニティ・ファンドと地域金融機関の協働やその推進の協力を通じて、その地域の発展に関わりたいと思っています。

ボランティアをさせていたでいるしみん基金・こうべは、色々なNPOの活動を間近で見ることができ、その協力もできる素敵なところだなと感じました。

就職活動と並行しての活動にはなると思いますが、精一杯頑張らせていただくので、よろしくお願ひします。

おすすめ BOOK



お金の地産地消白書2014（地域金融機関が
NPO支援に本気で参画するには？）
（コミュニティ・ユース・バンクmomomom発行、
2014年）

NPOバンクは市民による市民のための金融機関であり、地域の課題解決のためにNPO等に融資をしています。全国にはまだ、十数団体しかありませんが、より良い地域づくりのための手段の一つとして期待されています。

白書というだけあって、地域金融機関のお金に半分しかその地域に還元されていないことやNPOへの融資の方が一般企業に比べ、貸倒れ率が低い等驚くようなデータが多く示されています。もちろん、データだけでなく、momomomが地域金融機関とNPOを結びつけるために行われている「プロボノプロジェクト」の事例も紹介されていて、両者の連携による地域発展の可能性を感じることが出来ます。

これから多くの地域で、多様な課題が増えていくなかで、地域のお金を地域で循環させようという取り組みは全国で広がっていくと思います。

そのような先進的な取り組みをデータや事例を交え、分かりやすく説明してくれているので、あまり金融機関に興味のない方でも読みやすく、自分のお金の行き先や地元の現状についても深く考えさせられるような示唆に富んだ内容になっています。地域金融機関について知る第一歩としておすすめの本です。



今田忠著 「概説市民社会論」 （関西学院大学出版会、
2014）

本著は、著者である今田忠氏が、阪神・淡路大震災後の「新しい市民社会」建設のプロセスで経験されたことやその広い知見に基づいて、関西学院大学で教鞭を取られてきたときの講義録をベースに編まれた、体験的「市民社会論」です。

ご存知の方も多いと思いますが、当基金の基本財産は、今田氏が代表をされていた「阪神・淡路コミュニティ基金」から、被災地NGO協働センター代表の村井雅清氏（現在、当基金副理事長）に、当基金に寄附することを前提に助成いただいた資金でした。

改めて本著を読んでみますと、まだまだ知らなかったことも多く、新しい発見の連続でありました。中でも、第5章「社会的経済と社会的企業」の中で紹介されているイタリアでは協働組合が憲法でしっかりと位置づけられていることは、日本で大陸ヨーロッパの「社会的経済」の紹介が少ないからなのかもしれません。これからの日本の市民社会を考える上で大変示唆に富むものでした。

20年目のひとり言

（2020）

遡ること2ヶ月前、1月17日に阪神・淡路大震災から20年を迎えた。そしてこの原稿が皆さんの目に触れる頃、東日本大震災から4年目を迎えているだろう。

昨年、不慮の事故によってお亡くなりになられた貝原前兵庫県知事（震災当時兵庫県知事）は、元の街に戻すのではなく、将来を見据えた街づくりを目指す「創造的復興」を掲げ、震災復興に注力された。また、「共創・共生」という言葉も頻繁に口にされていて、たと記憶している。

20年という節目の今、これまでを検証し、次の20年に向け、改めて創造的な街づくりを考え直す時期に来ているように思える。社会環境が激変していく昨今、

画一的な成功事例は少なくなりつつある。しなやかさを持って「共に創り」「共に生きる」市民・企業・行政が知恵を出し合い、変化に対応していかなければ、明るい未来はやつて来ない。東日本大震災の被災地も同じ、これからの5年間で正念場だ。

2020年に開催される東京オリンピックを単なるスポーツの祭典に留まらず、震災復興の象徴として全世界から見えて頂けるものとなることを期待したい。

しみん基金 こうべ

専務理事

瀬戸口 仁三郎

「しみん基金・こうべ」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間3千円
団体会員 年間1万円

お申し込みは電話・ファクス・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

★振込口座

三井住友銀行三宮支店
普通 7965892

みなと銀行本店営業部
普通 1597921

近畿労働金庫神戸支店
普通 4161854

郵便振替

00990-5-157334

口座名義すべて「しみん基金・こうべ」

下記URLよりクレジット決済もご利用頂けるようになりましたので、ご活用ください。

<http://kessai.campan.in>

fo/org/shiminkinkobe/
当会ホームページからアクセスできます！

会員数とご寄付のご報告

◆正会員 個人34名 団体4団体
◆賛助会員 個人43名 団体11団体
(2015年2月末現在)

◆寄付・募金合計金額 43万2千2百16円

◆寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)
中島 秀男、飛田 雄一、大内 晴、赤松 竜、兵庫県遊技業組合、こうべあいウオーク2015

実行委員会、復興支援コンサート実行委員会、住友ゴム工業株式会社、被災地NGO協働センター、NPO法人神戸まちづくり研究所、オレンジスリフティ
(2014年12月、2015年2月)

※皆様方からの貴重なご厚志に

深謝申し上げます。

もうすぐ進学や就職で引越しのシーズンですね。ご卒業された方おめでとうございませう。私は進学でも就職でもありませんが最近引越しました。引越は大変ですが荷物の整理はできますね。引越すなどの際に、衣類の不用品が出たら、是非古着チャリティにご寄附をよろしく願います。(と)